

南山 宗教文化研究所

Nanzan Institute for Religion & Culture

南山宗教文化研究所 研究所報

第 19 号

2009 年

もくじ

はじめに	ポール・スワンソン	3
前頭連合野の中の機能単位を発見 ウイスコンシンカード分類テストをサルに適用	田中啓治	4
南山宗教文化研究所所蔵オウム真理教関係 未公開資料の意義について	渡邊 学	12
南山宗教文化研究所第 14 回シンポジウム 救援・復興・宗教 危機的状況下における人道援助とこころのケア	栗津賢太	30
内丹と外丹 中国における煉丹術の分化と内的動機	長澤志穂	38
魂の癒しといのちの根源性 スピリチュアルケア研究会の歩みを通して	坂井祐円	52
旧師旧友		67
今年の行事		71
スタッフの研究業績		77

読みたい項目をクリックしてください。

<i>Japanese Journal of Religious Studies</i> vol. 35 (2008) の目次	83
<i>Asian Ethnology</i> vol. 67 (2008) の目次	85
研究スタッフ	87

はじめに

2008年度の一年間、ジャーナル (*Japanese Journal of Religious Studies, Asian Ethnology*) や学術書の編集・出版、国際会議や研究会の開催に加え、多くのプロジェクトが実施された。「科学・こころ・宗教」(GPSS) プロジェクトや「日本の哲学」プロジェクトは大詰めを迎え、最終的な会議や出版物を纏める時期になった。『所報』の内容も、これらの活動を反映している。まずは「科学・こころ・宗教」プロジェクトの協力研究者である田中啓治氏(理化学研究所)による「前頭連合野の中の機能単位を発見」と題した報告があり、脳科学における「こころ」の解明(とくに人間がものごとを「選ぶ」自由をどのように理解すべきか、など)について最新の研究にもとづいて説明していただいた。また、本研究所所蔵オウム真理教関係資料の内容と意義について渡邊学氏の報告がある。研究会の報告としては、2009年2月に開催された第14回南山シンポジウム「救済・復興・宗教」と、2005年から開かれていた「スピリチュアルケア研究会」についての報告がある。研究論文としては、中国道教の「内丹と外丹」についての詳細な報告がある。広い範囲にわたって研究活動が行われていることが示されているだろう。

今年の英語版 *Bulletin* (33号) にも2月のシンポジウムについての報告があるが、日本語版と異なり、ハイジック氏の論文や、10月に韓国で開催したGPSSの国際ワークショップ報告や塚田穂高氏の「国内の宗教動向—現代日本における宗教性の行方」の英訳なども掲載している。日本語の『所報』と英文の *Bulletin* はいずれも宗文研のホーム・ページに掲載しているので、是非ご参照をお勧めしたい。

2009年7月3日
所長 ポール・スワンソン

旧師旧友

クラーク・チルソン Clark Chilson
(Pittsburgh 大学)

去年7月、11月間の日本学術振興会による研究を終えて、愛する名古屋からピッツバーグへ戻って参りました。現在、隠し念仏における秘密の帰結について本をこつこつと書いています。

主に物事を隠すことによって人の行動と知覚にどういう影響があるのかを究明しております。

もう一つ、「池田大作」の人生と指導性の研究に勤しんでいます。3月に創価学園と創価大学の卒業式に参加し、創価学会の幹部の方々にインタビューをさせていただきました。

今年、ピッツバーグ大学の宗教学部生の総括指導担当 (Director of Undergraduate Studies) に任命されそうなので、大学の雑用で一層忙しくなりそうです。私にとってオアシスである南山宗文研に早めにもどれたら幸いです。

久松英二 (神戸海星女子学院大学)

私の研究活動で報告すべきことは、まず、ビザンツ帝国末期のギリシア正教神秘主義に関するこれまでの研究成果を一冊の本にまとめて、今年の3月末に『祈りの心身技法—14世紀ビザンツのアトス静寂主義—』という書名で、京都大学学術出版会から刊行したことです。これで、この路線での研究にはいちおうの区切りをつけて (と言ってもまったく止めてしまうのではなく)、重心を比較宗教学の方に置いて研鑽してゆこうと考えています。

これとの関連でご報告したいことがあります。私が南山宗教文化研究所を去る際に、当時の所長であったJ. ハイジック教授か

らいわば宿題として課されていたルードルフ・オットーの『聖なるもの』の翻訳が、このたびやっと日の目を見ることができるようになりました。研究所の奥山倫明研究所員のお力添えでコンタクトをとることができた岩波書店の当時の文庫編集長に訳稿を送ったところ、一発で出版がOKとなり、今年中に岩波文庫として刊行されることとなりました。現在、初校の段階です。「宿題」が岩波文庫として世に出るなどとはもちろん予想外でしたので、本当に驚きました。しかし、また権威ある岩波文庫の名に恥じぬよう、心して訳文のチェックをしている次第です。とにかく、私の比較宗教学の研究は、宗教現象学・宗教哲学の古典的名著である本書の邦訳をスタートラインにして始めたいと考えています。

堀雅彦（札幌学院大学ほか非常勤講師）

今年も週5コマ程度の授業を非常勤で担当させていただきながら、何とか研究を続けています。履修する学生の数だけが雪ダルマ式に膨れ上がるなか（前後期とも千人を超えます）、わかりやすさばかりを優先させてきたこれまでの授業のやり方を、根本から考え直す時期に来ていると感じています。

以下、研究・執筆に関わる予定を、近いものから記させていただきます。

① 今秋行われる宗教学会学術大会に向けて、「宗教哲学の現在を問う—反本質論の波をうけて—」と題するパネル発表を企画・準備中です。

② 丸善より12月刊行予定の『宗教学事典』（星野英紀、池上良正、氣多雅子、島蘭進、鶴岡賀雄編）、「象徴」の項目を担当しています。

③ リトン社「宗教史学論叢」の一冊とし

て来年刊行予定の『宗教史とスピリチュアリティ』（仮題）に、ウィリアム・ジェイムズとスピリチュアリズムについての論文を寄稿させていただきます。

保呂篤彦（筑波大学）

今年になって娘が生まれ、私生活の方は大きく変化しましたが、仕事の方ではあまり大きな変化はありません。相変わらず、カントの宗教哲学や宗教多元主義をめぐる問題などに取り組んでいますが、進捗具合はいずれも牛歩の如くです。

宗教多元主義に関しては、昨年末に刊行されました、間瀬啓允編『宗教多元主義を学ぶ人のために』（世界思想社）に、複数の宗文研非常勤研究員や研究員経験者とともに、私も寄稿させていただきました。

川上恒雄（PHP 総合研究所）

昨秋から民間シンクタンクで研究員として勤務しております。出版事業で有名な関連会社（PHP 研究所）の収益で研究活動ができるのですが、入社したらいきなり大不況で経費削減の嵐です。しかし、会社特有の合理的とも思えないいろいろな慣習や文化をまた10年ぶりに体験できるのは、それはそれでおもしろいです。研究は引き続き、実業家の宗教を主なテーマとしております。

額満康兵（愛知工業大学）

近況：「諸行無常」を切に感じます。

長谷千代子（南山宗教文化研究所非常勤研究員）

研究所の皆様、ご無沙汰しております。昨年からは福岡の実家に戻り、非常勤を掛け

持ちしながら研究を続けています。最近、「宗教は信じるものではなく、演じるものだ」という直観を得て、その方向での事例研究を模索中です。先のことは分かりませんが、研究は続けられるかぎり続けようと思っています。

大谷栄一（佛教大学）

この4月から、京都の佛教大学社会学部現代社会学科に勤務しています。南山宗教文化研究所では、特別のお計らいで、4年間にわたり、研究員としてお世話になりました。この場をお借りして、深謝申し上げます。現在、近現代日本仏教史の研究に取り組んでおり、今秋、愛知学院大学の林淳先生と私の編集で、『季刊日本思想史』（ぺりかん社）「近代仏教」特集号が刊行予定です。また、戦後日本の宗教者平和運動の調査・研究にも取り組んでおり、現代世界における「宗教と平和」「宗教と戦争」等の問題について、研究を発信していければと考えています。引き続き、お世話になりますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

鳥巢義文（南山大学・南山短期大学）

皆様お元気でしょうか。当方は昨春から南山短期大学での学長職を兼任しながらですが、実践神学分野の活動をまとめた書籍を刊行することができましたので、この機会にご報告させていただきます。カトリック京都司教区聖書委員会企画編集『ルカ福音書を読む——同伴者イエス』（サンパウロ、2008年5月）に収録された「イエスと共にあること」（19－65頁）と、拙著『砂の中の福音』（新世社、2008年9月）です。新型インフルエンザ蔓延の心配される中で、学内で予定されている学会などの開催が危

ぶまれる今日この頃ですが、何とか滞りなく運営されることを願うばかりです。皆様のご健勝をお祈りいたします。

【新メンバーのご挨拶】

栗津賢太（南山宗教文化研究所研究員）

本年度から研究員として参りました。宗教社会学・歴史人類学を専攻しております。集合的記憶の研究をテーマとして、これまで、近代戦争における戦没者の慰霊や追悼施設に関して、英国および米国と日本の事例を比較研究してきました。最近では、「戦地巡礼と記憶のアリーナ：都市に組み込まれた死者の記憶—大連、奉天—」（『慰霊と追悼の間—近現代日本の戦死者観をめぐって—』錦正社）、「集合的記憶のエージェンシー：集合的記憶の社会学構築のために」（『国立歴史民俗博物館研究報告』第147集）などの論文を発表しました。また、沖縄において現在も続いている遺骨収集についてフィールド調査を行いながら研究しております。今年度は生産性の高い年にしたいと思っています。よろしくお願い申し上げます。

ムンシ ロジェ ヴァンジラ

Roger Vanzila Mumsi（第二種研究所員、南山大学外国語学部講師）

コンゴ民主共和国（旧ザイール）出身。研究領域は社会・文化人類学、民俗学、宗教です。コンゴのサカタ族を中心にアフリカの伝統的精神文化や、キリスト教の影響を研究しています。日本では文化人類学や歴史民俗資料学の視点でかくれキリシタンとキリシタン神社の調査研究に夢中になり、目下隠れキリシタンの家に生まれた人の伝記を執筆しています。この調査研究を進め

る上で、2008年4月から2009年3月にかけて南山宗教文化研究所非常勤研究員となり、2009年4月より南山大学で専任教員として教鞭をとっています(現代の文化人類学)。現在は南山宗教文化研究所第二種研究所員です。そのかわり、自分の研究テーマ『かくれキリシタンの宗教活動とその社会的機能—価値観と都市文化との相互的影響』をより深く掘り下げたいと資料を収集し、分析研究しています。

V・宗源 堀 Victor Sōgen Hori (マギル大学
准教授)

2008年5月から12月まで、国際交流基金の助成金によって宗文研の研究員として滞在ができ、Little Jade: Language and Experience in Zen というプロジェクトを始めました。数年前からしたいと思っていたプロジェクトで、実際スタートが出来て嬉しいです。今年 Roche Chair for Inter-Religious Research (諸宗教研究講座) の担当として2009年6月から12月まで滞在しており、そのプロジェクト Little Jade を完成するつもりです。よ

ろしくお願いいたします。

ケラー・キンブロー R. Keller Kimbrough
(コロラド大学ボルダー校 准教授)

2009年5月から14ヶ月の予定で、宗文研の客員研究所員として滞在しております。日本の中世・近世文学(説教節、古浄瑠璃)の研究、翻訳に取り組んでおります。また、2009年秋号、*Japanese Journal of Religious Studies* の客員編集者として編集にも従事させていただいております。最近の出版物は *Preachers, Poets, Women, and the Way: Izumi Shikibu and the Buddhist Literature of Medieval Japan* (Ann Arbor: University of Michigan Center for Japanese Studies, 2008)。再度、南山大学で研究休暇を過ごせることを、とても嬉しく感謝しております。よろしくお願ひいたします。<http://spot.colorado.edu/~kimbrouk/Site/Welcome.html>

担当: 栗津賢太 (あわづ・けんた)
本研究所研究員

昨年の行事

2008 年 4 月 ～ 2009 年 3 月

2008 年

- 4 月 12 日 Annewieke Vroom (アムステルダム自由大学神学部)、西田と西谷にかんする短期調査のため来所 (4 月 14 日～5 月 30 日)。Paul Swanson、James Heisig、奥山倫明、渡邊学が、日本宗教学会の委員会のため上京。
- 4 月 16 日 2 つの所内セミナーが行なわれた。発表は Clark Chilson による “Conundrums Secrecy Creates” および Rafael Shoji による “Religions among Japanese Brazilians.” 14 名参加。
- 4 月 23 日 川上恒雄が「教団改革と信者」と題して所内セミナーで発表。内容は世界救世教にかんするこれまでの調査による。9 名参加。
- 4 月 24 日 John Keenan が 3 度目の所内セミナーを行なう。タイトルは “A Christian Reading of the Heart Sutra.”。
- 5 月 9 日 京都大学に新たに設置されたところの未来研究センターから 2 名の講演者を迎え、GPSS「科学と宗教」の懇話会が開かれた。内容は以下の通り。船橋新太郎氏(同センター教授)「前頭連合野からみた人のところ」吉川左紀子氏(同センター長)「表情とところ—心理学のアプローチ」。これは GPSS「科学と宗教」の 21 回目の懇話会にあたる。39 名参加。
- 5 月 13 日 Victor Hori が短期調査のため来所 (7 月 31 日まで)。
- 5 月 15 日 R. Keller Kimbrough が調査のため来所 (8 月まで)。渡邊学が名古屋の中部平和会館において「現代人の宗教意識とスピリチュアリティの文脈」と題して講演。
- 5 月 16 日 Scott Schnell が短期調査のため来所 (6 月 6 日まで)。
- 5 月 23-24 日 石井砂母亜(上智大学)が東西宗教研究の構成のため、来所。
- 5 月 24 日 渡邊学が南山大学における市民講座の初回において「宗教研究の課題—伝統宗教からスピリチュアリティまで—」と題して講演。
- 5 月 23 日 Paul Swanson 韓国のソウルへ出張、西江大学の参加者と 10 月の GPSS 国際ワークショップについて打ち合わせ。
- 5 月 24 日 川並宏子(ランカスター大学教授)、人類学研究所の将来についての評価委員会に参加のため来所。
- Tom Kirchner、『臨済録』の Ruth Fuller Sasaki による注釈つき訳書の新訂版の最終校正のため来所。

- 6月4日 Beverly Stoeltje (インディアナ大学教授、人類学)、Richard Bauman (インディアナ大学教授、民俗学・民族音楽学)、熱田神宮の例祭に参加するため来所。
- 6月7日 奥山倫明、宗教学会参加のため京都へ出張。
- 6月7-8日 James Heisig、日本哲学プロジェクトのため以下の研究者らを迎える。上原麻有子、斎藤多香子、Clinton Godard、氣多雅子、Britta Boutry-Stadelmann、嘉指信雄、Isaac Sylvain、北川東子、清水高志、寺尾寿芳。
- 6月12日 「救援・復興・宗教—危機的状況下における人道援助とこころのケア—」と題する第1回懇話会を開催。西山志保(山梨大学准教授)による「阪神・淡路大震災における『支えあい』の実践知—ボランティアリズムとサブシステム—」。15名参加。
- 6月14-15日 「宗教と社会」学会第16回学術大会が南山大学にて開催される。併せて、GPSS主催によるパネル「日本における『科学と宗教』の対話の意味を問い直す」が行われた。大会には230人を上回る人が、パネルには50名が参加した。
- 6月21日 渡邊学、日本宗教学会編集委員会出席のため、東京へ出張。
- 6月22日 Mark Blum および Teresa Blum、日本哲学プロジェクトのため来所。
- 6月23日 Tom Kasulis、日本哲学プロジェクトのため研究所を短期訪問(9月9日まで)。
- 6月27日 *Neglected Themes and Hidden Variations* (vol. 2 of the “Frontiers of Japanese Philosophy” series), edited by Victor Hori and Melissa Anne-Marie Curley が印刷所より届く。
- 6月28日 Paul Swanson、同志社大学で開催されたG8宗教指導者サミット参加のため、京都を訪問。
- 7月5-12日 James Heisig、Asociación Latinoamericana para el Estudio de las Religiones (ALER) 参加、および基調講演のためコロンビアのボゴタを訪れた。
- 7月5日 Paul Swanson、渡邊学、奥山倫明、日本宗教学会各種委員会出席のため東京へ出張。
- 7月8-14日 Paul Swanson、GPSS プロジェクトにおけるワークショップのため、パリに出張。
- 7月18日 上原立人(タカハシクリニック 精神保健福祉士)を迎え、「沖縄トラウマとその否認—戦後の精神障害者と私宅監置—」と題する懇話会を開催。「救援・復興・宗教」シリーズの2回目で、16名参加。
- 7月30日 Timothy Richardson (ブリガム・ヤング大学ハワイ校)、*Remembering Traditional/Simplified Hanzi*, vol. 2 に関して James Heisig との共同作業のため来所(8月19日まで)。
- 8月1-4日 Paul Swanson、東アジア宗教文化学会、創立記念国際学術大会に出席するため韓国、釜山に出張。
- 8月9-24日 Robert Rauther (junior lawyer with the Higher Regional Court of Duesseldorf, Germany)、Jim Heisig と “Learning the Hanzi” のドイツ語版に関する作業のため来所。
- 8月17日 奥山倫明、国際会議 (*Understanding Conflicts: Cross-Cultural Perspectives*) 出席のためデンマーク、オーフス大学へ出張(9月2日まで)。
- 8月23日 渡邊学、日本倫理学会評議員会出席のため東京へ出張。
- 8月25日 渡邊学、南山大におけるオウム資料についての発表のため、国学院大学へ出張。
- 8月27日 Benjamin Dorman オーストリアのアボリジニ研究に関する資料収集のため、オー

- ストラリアへ出張（9月20日まで）。オーストラリア国立大学より The Research School of Pacific and Asian Studies における客員研究員への任命を受ける。またメルボルンも訪問し、人類学者やアジア研究者と懇談した。
- 9月1日 Yusa Michiko（西ワシントン大学、日本研究・東アジア研究）、日本哲学プロジェクトのため来所。
- 9月1日 渡邊学、東西宗教交流学会出席のため、京都へ出張。
- 9月5日 日本語版『研究所報』（2008, vol. 18）印刷所より納品。
- 9月10日 Benjamin Dorman、オーストラリア国立大学音楽学部の大学院ゼミに招待され、査読付き学術誌へ論文投稿に関して講演を行なう。
- 9月13-15日 渡邊学、奥山倫明が、筑波大学で催された日本宗教学会大会に参加した。渡邊は宗教系大学における宗教教育に関して発表した。
- 9月16-19日 奥山倫明が会議“La filosofia e l’arte di Shinjo Ito” 出席のためミラノへ出張。
- 9月22-29日 James Heisig、イタリアのトリノへ出張し、“Torino Spiritualità” の国際会議において講演した。
- 9月27日 渡邊学、「宗教と社会」学会常任委員会出席のため東京へ出張。
- 10月3日 宮原浩二郎（関西学院大学教授）を迎え、「災害復興を社会美学の観点から考え直す」と題して懇話会を開催。これは「救援・復興・宗教」シリーズの第3回にあたり18名が参加した。
- 10月3日 渡邊学、日本倫理学会出席のため、筑波大学へ出張。
- 10月4日 John Maraldo、諸宗教研究講座（ローチ・チェア）就任のため来所。（2009年4月まで）
- 10月9日 James Heisig、奥山倫明、エジプトのカイロへ出張。カイロ大学文明研究・文化間対話プログラム主催「伝統と近代のあいだにおける発展—エジプトと日本の経験—」の会議への参加のため。
- 10月11日 Paul Swanson、日本宗教学会の常務理事会に出席のため東京へ出張。
- 10月17日 国際日本文化研究センター共催のワークショップ開催。テーマは「仏教からみた前近代と近代」。大谷栄一が「近代日本仏教史研究は何を問わなかったか?」、James Heisig が「英文日本哲学資料集の作成について」と題して発表。25名参加。
- 10月24日 Paul Swanson、大谷栄一、GPSS の会議「脳科学と宗教—いくつかのアジアの視角—」のため韓国のソウルへ出張。南山宗教文化研究所と西江大学宗教研究センターの共催で行なわれた。
- 10月27日 渡邊学、国学院大学日本文化研究所で開かれた「国際研究フォーラム〈ウェブ経由の神道・日本宗教〉—インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ—」のパネルでコメントした。
- 10月28日 Benjamin Dorman、南山学会地域研究・国際関係系列の研究例会において発表した。
- 10月30日 James Heisig、渡邊学、アメリカ宗教学会大会出席のため、シカゴへ出張。渡邊は「湯浅泰雄の哲学」のパネルで湯浅に対するユングの影響について発表。
- 10月31日 Paul Swanson、新潟県妙高山麓で催された山岳修験学会へ参加。
- 11月9日 Mark Teeuwen（オスロ大学教授、日本研究）日本哲学プロジェクトにおける「神

道思想」セクションの作業のため来所（11月30日まで）。

- 11月12日 Andrea Molle（過去2年間、南山大における JSPS post-doctoral research fellow）が武道に関する所内セミナーを行なう。題目は“Doing Research in Japanese Martial Arts: Studying Religious Implications.” 9名参加。
- 11月14日 Paul Jen-kuei Li 李壬癸（Academia Sinica, Institute of Linguistics in Taipei）、人類学研究所図書館の資料収集のため、来所。
- 11月19日 Benjamin Dorman、アメリカ人類学会出席のため、サンフランシスコへ出張。併せて、Asian Ethnology に関する会議を、編集協力者 Scott Schnell らの研究者と行った。
- 11月20日 *Monasticism Buddhist and Christian: The Korean Experience* (Peeters/ Eerdmans, 2008), ed. Sunghae Kim and James Heisig が、印刷所より納品された。
Ranjana Mukhopadhyaya（名古屋市立大学准教授）を招いて懇話会が催された。テーマは「社会開発・国際支援・仏教復興—カンボジアにおける『社会参加仏教』—」。「救援・復興・宗教」シリーズの4回目となり、20名が参加した。
- 11月22日 Laura Spaeker（ウィリアムズ・カレッジ大学院生）が、将来の研究計画について Victor Hori と相談するために来所。
- 11月27日 John Breen（京都の国際日本文化研究所にて研究中）が出版プロジェクトについて議論するため来所。
- 11月29日 GPSS の連携メンバーのために2日間にわたるワークショップを開催。テーマは「脳科学とこころ」。発表者は、田中啓治、入来篤史（理化学研究所）、舟橋新太郎（京都大学こころの未来研究センター）。
- 12月6日 Jessica Main（マッギル大学大学院生、現在、大谷大学にて研究中）が、Victor Hori と博士論文について相談するために来所。
- 12月11日 *Les philosophes du néant: Un essai sur l'école de Kyoto* (Paris: CERF, 2008), James Heisig 著, Sylvain Isaac, Bernard Stevens, Jacynthe Tremblay 訳、印刷所より納品。
- 12月12日 Richard Jaff（デューク大学宗教学科長）、JJRS の特集について議論するために来所。
宮地尚子（一橋大学教授）を迎え、懇話会を開催。テーマは「トラウマに向き合うということ：環状島モデルを用いて」。「救援・復興・宗教」シリーズの5回目になり、17名が参加。
- 12月16日 *Japanese Journal of Religious Studies* (volume 35/2) 秋号、印刷所より納品。
- 12月18日 *Origins and Possibilities* (“Frontiers of Japanese Philosophy” 3, 2008), James Heisig and Uehara Mayuko 編、印刷所より納品。
- 12月20日 渡邊学、日本倫理学会および「宗教と社会」学会の委員会のため、東京へ出張。

2009 年

- 1月1-9日 Gereon Kopf（ルター・カレッジ准教授 [アイオワ州]）、日本哲学研究のため来所。
- 1月4-9日 Bret Davis（ロヨラ・カレッジ助教授 [メリーランド州]）日本哲学プロジェクトおよびその他の将来のプロジェクトについて議論するため来所。

- 1月4日 Mark Blum（ニューヨーク州立大学准教授）日本哲学プロジェクトのため来所、3週間滞在。
- 1月6日 Kim Sung-hae と James W. Heisig 編著の新書、Encounters: The New Religions of Korea and Christianity. (Seoul: The Royal Asiatic Society, 2008), 185 pages が印刷所より納品される。
- 1月23日 今泉宜子（Senior Researcher at the Meiji Jingu Research Institute,）明治神宮の研究について議論するため来所。
- 1月23日 日本の「イタコ」とコンゴの「ミキシ」を比較研究する Felix Kaputu（国際日本文化研究所外来研究者）が来所。
- 1月29日 稲葉圭信（神戸大学准教授）を迎え、懇話会が開かれた。テーマは「混迷の時代を考える一思いやり・宗教の社会貢献研究と私」、「救援・復興・宗教」シリーズの6回目となり、参加者は18名。
- 2月15日 Aasulv Lande（ルンド大学名誉教授 [スウェーデン]）神道に関する著作の執筆のため来所（3月9日まで）。
- 2月17日 Annewieke Vroom、阿部正雄研究のため来所（5月まで）。
- 2月18日 James W. Heisig、Robert Rauther、Timothy W. Richardson による新刊、*Vereinfachte Hanzi lernen und behalten. Bedeutung und Schreibweise der häufigsten chinesischen Schriftzeichen* (Frankfurt: Klostermann Verlag), 471 pages、が印刷所より納品。
- 2月27日 第14回南山シンポジウム「救援・復興・宗教——危機的状況下における人道援助とこころのケア」が開催された。参加者30名以上、参加者国籍は11カ国以上に及ぶ（フィンランド、レバノン、ロシア、マケドニア、オランダ、インド、スウェーデン、コンゴなど）。
- 3月8日 Raphael Shoji（サンパウロ・カトリック大学研究員）来所。
Joseph O'Leary（上智大学教授）来所。
- 3月12日 John Maraldo（ローチ・チェア）が所内セミナーで発表。テーマは“An Alternative Notion of Normativity”、13名が参加。
- 3月13日 渡邊学、宗教文化士プロジェクトの第4回全体会議および『宗教研究』編集委員会出席のため東京へ出張。
- 3月16日 Benjamin Dorman、八王子の創価大学で行なわれた東洋哲学研究所のミーティングに出席。
- 3月18日 大谷栄一の送別会を開催。
- 3月25日 Benjamin Dorman、シカゴで開かれたアジア学会大会で発表、併せて、Asian Ethnology の編集協力者 Scott Schnell とミーティング。5月29日よりアイオワを訪れ、Scott Schnell とともに雑誌に関する仕事、およびアイオワ大学の協力者との相談が行なわれる（4月6日まで）。
- 3月23日 James Heisig、講演および同志社大学での会議のため、福岡と京都に出張。

その他の訪問者

2008 年

- 4 月 2 日 Ian Reader (マンチェスター大学教授); Ioannis Gaitanidis (リーズ大学博士候補生)
4 月 4 日 David Kolb (ベイツ・カレッジ名誉教授)
4 月 14 日 Anton Luis Capistrano (国際交流基金フェロー、アテネオ・デ・マニラ大学)
5 月 1 日 Daniel Metraux (メアリー・ボールドウィン・カレッジ教授)
6 月 17 日 Richard Reitan (フランクリン・アンド・マーシャル・カレッジ助教授)
6 月 20 日 Anna Bertova (名古屋大学研究生)
6 月 23 日 Levi McLaughlin (プリンストン大学博士候補生)
7 月 22 日 Jean-Noël Robert (フランス国立高等研究院教授・フランス極東学院)
7 月 25 日 Odagiri Takushi (スタンフォード大学博士候補生)
8 月 2-3 日 John D. Dadosky (レジス・カレッジ准教授 [カナダ])
8 月 9-10 日 Sija Graupe (ケルン大学ポストドクトラル研究員)
9 月 3-4 日 岩本明美 (宗文研旧研究員)
9 月 19 日 國弘暁子 (お茶の水女子大学研究員)
10 月 8 日 Kiri Paramore (レイデン大学助教授)
10 月 19 日 稲垣京輔 (横浜市立大学准教授)
10 月 20 日 Alberto Silva, (京都外国語大学客員教授)
11 月 13 日 粟津賢太 (創価大学講師)

2009 年

- 1 月 9 日 Dermott Walsh (レイデン大学大学院生)
1 月 21 日 尾本久美 (大正大学研究生)
1 月 19 日 Wamae Muriuki (オハイオ州立大学大学院生)
2 月 3 日 林貴啓 (立命館大学講師)
2 月 4 日 伊達聖伸 (日本学術振興会特別研究員)
3 月 16 日 Michael Saso (ハワイ大学名誉教授)

研究所のスタッフの研究業績

2008 年 4 月 ～ 2009 年 3 月

ベンジャミン・ドマン Benjamin Dorman (第一種研究所員、人文学部教授)

- 論文 “Update on *Asian Ethnology* (formerly *Asian Folklore Studies*),” *Bulletin of the Nanzan Institute for Religion and Culture* 32 (2008), 28–30.
「Asian Ethnology についての報告」、『南山宗教文化研究所 研究所報』 32 (2008): 68–70.
“Editors’ Introduction” (with Scott Schnell), *Asian Ethnology* 67/1 (2008): 1–3.
- 書評 Nancy K. Stalker, *Prophet Motive: Deguchi Onisaburō, Oomoto, and the Rise of New Religions in Imperial Japan* (University of Hawai‘i Press, 2008). *Japanese Journal of Religious Studies* 35/2 (2008): 384–7.
- 学会発表 “Seeing Stars: Celebrities and Spiritual Secrets in Occupied Japan.” Association of Asian Studies Annual meeting, Chicago, 2009 年 3 月 26 日。
- 口頭発表 “Preparing and Publishing Articles in Peer-Reviewed Journals.” The Australian National University’s School of Music, Canberra, Australia, 2008 年 9 月 10 日。
“New Religions and Media in Occupied Japan.” 南山学会地域・国際関係, 南山大学, 2008 年 10 月 28 日。

ジェームズ・W・ハイジック James W. Heisig (第一種研究所員、人文学部教授)

- 著書 (trans. Bernard Stevens, Jacynthe Tremblay, Sylvain Isaac). *Les philosophes du néant: Un essai sur l'école de Kyoto* (Paris: Éditions du Cerf, 2008). 481 pages.
(ed. with Kim Sung Hae). *Monasticism Buddhist and Christian: The Korean Experience*. (Leuven: Peeters, 2008), 201 pages.
(ed. with Uehara Mayuko). *Frontiers of Japanese Philosophy 3: Origins and Possibilities* (Nagoya: Nanzan Institute for Religion and Culture, 2008), 304 pages.
(ed. with Sung Hae Kim). *Encounters: The New Religions of Korea and Christianity*. (Seoul: The Royal Asiatic Society, 2008), 185 pages
(with Timothy W. Richardson). *Remembering Traditional Hanzi: How not to forget the meaning and writing of Chinese characters, Book 1* (Honolulu: University of Hawai‘i Press, 2008), 433 pages.

- (with Timothy W. Richardson). *Remembering Simplified Hanzi: How not to forget the meaning and writing of Chinese characters, Book 1* (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2008), 424 pages.
- (with Robert Rauther and Timothy W. Richardson). *Vereinfachte Hanzi lernen und behalten. Bedeutung und Schreibweise der häufigsten chinesischen Schriftzeichen* (Frankfurt: Klostermann Verlag, 2008), 471 pages.
- 論文 「ヴァン・ブラフトの著作における宗教思想」『東西宗教研究』7 (2008): 4-27.
- “The Pontifical Thought of Jan Van Bragt (1928-2007).” *Bulletin of the Nanzan Institute for Religion and Culture* 32 (2008): 9-27.
- “The Cultural Disarmament of Philosophy,” *Universitas Philosophica* 25, Nr. 50 (2008): 16-39.
- “¿Què es veu quan els llums s'encenen?,” Raquel Bouso, *El Zen* (Barcelona: Fragmenta Editorial, 2008), 159-63.
- 学会発表 Panel response on “The Education Systems and Reforms in Egypt and Japan”. International conference on “Development between the Traditional and the Modern: The Egyptian and Japanese Experiences.” University of Cairo, Egypt, 2008 年 10 月 13 日 .
- 「英文日本哲学資料集の作成について」、南山宗教文化研究所・国際日本文化研究センター共催、第 3 回「仏教からみた前近代と近代」をめぐり研究会、南山宗教文化研究所、2008 年 10 月 17 日
- “East Asian Philosophy and the Case against Perfect Translations.” International Workshop on “New Perspectives on Translation in Japanese and Transcultural Studies: Problems and Potentials,” 同志社大学、2009 年 3 月 27 日 .
- 講演 “Más allá de un Dios personal.” Keynote address to the Asociación Latinoamericana de Estudios Religiosos, Universidad el Rosario, Bogotá, Colombia, 2008 年 7 月 8 日 .
- “El desarme cultural de la filosofía.” Departamento de Filosofía, Universidad Javeriana, Bogotá, Colombia. 2008 年 7 月 10 日 .
- “Un'ipotesi spirituale per un pianeta sofferente.” Torino Spiritualità, Torino, 2008 年 9 月 27 日 .
- “Interreligious Dialogue.” Gathering of the Oblates of Mary Immaculate working in Japan and Korea, Fukuoka, 2009 年 3 月 24 日 .
- 寄稿 “In Memoriam Jan Van Bragt (1928-2007).” Reprint in: *Buddhist-Christian Studies* 28: 141-4.

梁 晓虹 Liang Xiao Hong (第二種研究所員、総合政策学部教授)

- 著 書 (徐時儀 Xu Shiyi, 陳五雲 Chen Wuyun 共著)『佛經音義研究通論』、鳳凰出版社、2008 年、494 頁。
- 論 文 (陳五雲 Chen Wuyun 共著)「石山寺本『大般若經音義』(中卷) 俗字研究」、『中国語言学集刊』3/1 (2008): 45-77 頁。
- 「日本古寫本佛經音義與漢字俗字研究」、『中国文字学報』2 (2008): 114-31 頁。

「試釋『佛說安墓經』」、『東亞文獻研究』2 (2008): 63-81 頁。

「日本中近世禪林歇後語之修辭研究」、『第九回中国修辭学国際學術研討会論文集』、463-94 頁。

(陳五雲 Chen Wuyun 共著)「石山寺本『大般若經音義』(中卷) 俗字研究(續)』、『アカデミア』88 (2009): 281-342 頁。

学会発表 「日本中近世禪林歇後語之修辭研究」、第九回中国修辭学国際學術研討会、2008 年 5 月 10 日。

「如何閱讀孤本疑偽經——以『佛說安墓經』為例」、台湾台北国立政治大学と法鼓山共同開催、2008 年 11 月 1 日。

長澤壮平 (ながさわ・そうへい) (研究員)

著 書 『早池峰岳神楽一舞の象徴と社会的実践—』2009 年 3 月、岩田書院、277 頁。

論 文 「〈上演〉に根ざす地域伝統文化」『社会学評論』235 号、2008 年 12 月、566-582。

「信仰世界としての日常」『哲学・思想論叢』27 号、2009 年 1 月、1-15。

口頭発表 「ありふれた身体経験に根ざす神事芸能」、[文化／批評]研究会第 22 回研究会、大阪大学、大阪、2008 年 10 月 20 日。

「身体経験と民俗宗教」『宗教研究』359 号、2009 年、456-457 頁。

「権現舞の型と身体」第 29 回山岳修験学会学術大会、妙高高原メッセ、新潟、2008 年 11 月 1-3 日。

奥山倫明 (おくやま・みちあき) (第一種研究所員、人文学部教授)

論 文 「アーリアとセム——19 世紀的カテゴリーの再検討」、市川裕、松村一男、渡辺和子共編、『宗教史とは何か』(上巻)、リトン、2008 年、37-61 頁。

“Dispute over Yasukuni Shrine and Its War Dead in Contemporary Japan,” *Religion Compass* 3/1 (2009): 58-71 頁。

“Recent Topics in the Study of History of Religions in Japan,” 人文・社会科学編、『アカデミア』88 (2009): 47-60 頁。

「『アーリア・モデル』をめぐる議論の動向」、『比較文明』28 (2009): 2-20 頁。

学会発表 “Conflicts and Mitigations Surrounding Documentary Films on Yasukuni Shrine,” Understanding Conflicts, Cross-Cultural Perspectives, University of Aarhus, Denmark, 2008 年 8 月 22 日。

「岸本英夫の昭和 20 年」、日本宗教学会第 67 回学術大会、筑波大学、2008 年 9 月 15 日。

“Comment on Dr. Mona Abaza’s ‘Cairo,’” International conference on “Development between the Traditional and the Modern: The Egyptian and Japanese Experiences.” University of Cairo, Egypt, 2008 年 10 月 12 日。

「戦後日本の《国家と慰霊》問題に関する英語圏における研究動向」、第 57 回宗教法学会、白鷗大学、, 2008 年 11 月 8 日。

寄 稿 「エリアーデを再読するために」、ミルチャ・エリアーデ、『迷宮の試煉』、作品社、2009 年、

280-8 頁。

「甦る倉橋由美子——1980年代の《宗教小説》を振り返る」、渡邊直樹編『宗教と現代がわかる本 2009』、平凡社、2009年、234-7 頁。

大谷栄一（おおたに・えいいち）（研究員）

- 論文 「反戦・反ファシズムの仏教社会運動—妹尾義郎と新興仏教青年同盟」、京都仏教会監修『国家と宗教—宗教から見る近現代日本』法蔵館、2008年、447-481 頁。
- 「コメント『慰霊と顕彰の間』はどのように問われたのか?」、國學院大學研究開発推進センター編『慰霊と顕彰の間—近現代日本の戦死者観をめぐる』錦正社、2008年、133-150 頁。
- 「近代日本仏教史研究の方法論」、『佛教學報』50、2008年、21-47 頁。
- 「近代日本の思想的水脈としての日蓮主義」、『RATIO』6、2009年、204-228 頁。
- 学会発表 「『近代』を問う理路としての仏教改革運動と神秘思想?」、新佛教研究会、於東京大学、2008年4月13日。
- 「近代日本仏教史研究の方法論」、国際セミナー「中国・日本・韓国における仏教と人文学の疎通」、於東国大学校仏教文化研究所、韓国、2008年5月30日。
- 「『宗教社会学』というテキストの可能性」、名古屋宗教社会学史研究会、於南山宗教文化研究所、2008年7月31日。
- 「中島重の社会的基督教と妹尾義郎の社会的仏教」、日本宗教学会第67回学術大会パネル「宗教者は社会にどのように向き合ってきたか—近代日本の事例」、於筑波大学、2008年9月15日。
- 「『新しい仏教』という運動——近代仏教改革運動の文化史」、「近代と仏教」研究会、於京都府立大学、2008年9月20日。
- 「近代日本仏教史研究は何を問わなかったのか?」、「仏教からみた前近代と近代」第3回研究会、於南山宗教文化研究所、2008年10月17日。
- 「『近代』と『紛争』をめぐる考察」、名古屋宗教社会学史研究会、於南山宗教文化研究所、2008年11月7日。
- 「日蓮はどのように語られたか?——近代日蓮像の構築過程の文化分析」、「開祖論・教祖論の構築・脱構築」第2回研究会、於天理大学おやさと研究所、2009年1月31日。
- 「『新佛教』研究調査報告」、第4回新佛教研究会、於南山宗教文化研究所、2009年2月14日。
- 「1995年以降の宗教研究」、名古屋宗教社会学史研究会、於南山宗教文化研究所、2009年3月13日。
- 講演 「明治初期の宗教界の動向—廃仏毀釈と信教の自由」、東洋大学校友会寄附講座「日本の近代化と東洋大学—井上円了の哲学と実践」、於東洋大学、2008年8月6日。
- 「戦後日本の宗教者平和運動の原点」、愛知宗教者平和の会学習研究会、於西祐寺、2008年8月28日。
- 「殺すなかれ、殺さしむなかれ——戦前期日本における仏教者の非戦・平和の論

- 理と倫理」、愛知宗教者平和の会学習研究会、於西祐寺、2009年2月7日。
- 書 評 「はじめに」「書評2 宗教史研究からみた安丸思想史」、『南山宗教文化研究所所報』18、2008年、40-41、45-51 頁
- 寄 稿 「宗教者平和運動と憲法9条」、『国際宗教研究所ニュースレター』61、2009年、38-42 頁。

ポール・スワンソン Paul L. Swanson (第一種研究所員、人文学部教授)

- 論 文 「序言」、梁曉虹著『佛教與漢語史研究——以日本資料為中心』、上海古籍出版社、2008年、1-3 頁。
(林淳共著)「日本の宗教と宗教研究—宗教と政治」、島蘭進、Gerie Ter Haar、鶴岡賀雄共編『宗教—相克と平和』、秋山書店、365-81 頁。
- 学会発表 “Mind, Heart, and Kokoro: A Japanese Perspective.” International GPSS Workshop on “Brain Science and Religion: Some Asian Perspectives,” Sogang University, Seoul、2008年10月28日。

渡邊 学 (わたなべ・まなぶ) (第一種研究所員、総合政策学部教授)

- 論 文 「愛、慈悲、憎悪のただ中の宗教的暴力」、島蘭進、Gerie Ter Haar、鶴岡賀雄共編『宗教—相克と平和』、秋山書店、44-59 頁。
「過程としての回心——エホバの証人、福音派からカトリックへ」、櫻井義秀編著『カルトとスピリチュアリティ——現代日本における「救い」と「癒し」のゆくえ』、ミネルヴァ書房、2009年75-111 頁。
「宗教研究の課題——伝統宗教からスピリチュアリティまで」、青木清編『大学院の授業を聞きに行こう』南山大学、2009、1-27 頁。
「錯綜する物語——ある新宗教元幹部の入信と脱会の事例研究」、『南山神学別冊』24号、南山大学2009年、1-27 頁。
指定討論論文「星川啓慈「宗教間対話における言語の問題——非自然言語をいかに宗教間対話にとりこむか——」に対するレスポンス」、『東西宗教研究』7号、東西宗教交流学会、2008年、202-2 頁。
- 書 評 佐藤研『禅キリスト教の誕生』岩波書店、『日本の神学』47号、(神学年報2008年、日本基督教学会編)、226-31 頁。
- 口頭発表 「南山宗教文化研究所所蔵オウム真理教関係資料の整理状況について」、研究フォーラム「教団資料の分析方法——オウム真理教の教団資料をどう扱うか」、國學院大學學術メディアセンター、東京、2008年8月25日。
「宗教系大学における宗教教育の教材選択の問題点」、パネル「情報時代の宗教文化教育の教材」、日本宗教学会第67回学術大会、筑波大学、2008年9月14日。
発表要旨：『宗教研究』第82巻第4輯359号、pp.101-102。
“Jung’s Traces in Yuasa’s Philosophy: How did Yuasa Adapt Jung’s Psychology?” Panel on the Philosophy of Yuasa Yasuo, American Academy of Religion, Chicago、2008年11

月3日。

「南山宗教文化研究所所蔵オウム真理教関係資料の意義について」南山宗教文化研究所所員セミナー、南山宗教文化研究所、2008年12月10日。

国際研究フォーラム「ウェブ経由の神道・日本宗教—インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ」、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、2008年10月26日。

講演

「現代人の宗教意識とスピリチュアリティの文脈」、中部青年平和講座（創価学会中部青年部）、中部平和会館、2008年5月15日。

「宗教研究の課題——伝統宗教からスピリチュアリティまで」南山大学連続講演会第1回、南山大学、2008年5月24日。

Japanese Journal of Religious Studies

Volume 35 (2008) の目次

論文

- AHN, Juhn Y. Zen and the Art of Nourishing Life: Labor, Exhaustion, and the Malady of Meditation. 35/2: 177–229.
- ALBUQUERQUE, Eduardo Basto de. Intellectuals and Japanese Buddhism in Brazil. 35/1: 61–79.
- BRODER, Anne. Mahikari in Context: *Kamigakari*, *Chinkon kishin*, and Psychical Investigation in Ōmoto-lineage Religions. 35/2: 331–362.
- KLAUTAU, Orion. Against the Ghosts of Recent Past: Meiji Scholarship and the Discourse on Edo-Period Buddhist Decadence. 35/2: 263–303.
- NAKAMAKI Hirochika. Japanese Religions, Calendars, and Religious Culture in Brazil. 35/1: 145–159.
- NELSON, John. Household Altars in Contemporary Japan: Rectifying Buddhist “Ancestor Worship” with Home Décor and Consumer Choice. 35/2: 305–330.
- PARAMORE, Kiri. Early Japanese Christian Thought Reexamined: Confucian Ethics, Catholic Authority, and the Issue of Faith in the Scholastic Theories of Habian, Gomez, and Ricci. 35/2: 231–262.
- PEREIRA, Ronan Alves. The Transplantation of Soka Gakkai to Brazil: Building “the Closest Organization to the Heart of Ikeda-Sensei”. 35/1: 95–113.
- ROCHA, Cristina. All Roads Come from Zen: Busshinji as a Reference to Buddhism. 35/1: 81–94.
- SHOJI, Rafael. The Failed Prophecy of Shinto Nationalism and the Rise of Japanese Brazilian Catholicism. 35/1: 13–38.
- SHOJI, Rafael and Frank USARSKI. Editors’ Introduction: Japanese Religions in Brazil. 35/1: 1–12.
- USARSKI, Frank. “The Last Missionary to Leave the Temple Should Turn Off the Light”: Sociological Remarks on the Decline of Japanese “Immigrant” Buddhism in Brazil. 35/1: 39–59.
- WATANABE, Masako. The Development of Japanese New Religions in Brazil and Their Propagation in a Foreign Culture. 35/1: 115–144.

書評

- Baroni, Helen. *Iron Eyes: The Life and Teachings of Ōbaku Zen Master Tetsugen Dōkō*. Rev. by Paul B. Watt, 35/2: 373–375.
- Breen, John, ed. *Yasukuni, the War Dead, and the Struggle for Japan’s Past*. Rev. by Trent Maxey, 35/2: 390–393.
- Carter, Robert E. *The Japanese Arts and Self-cultivation*. Rev. by Andrea Molle, 35/2: 397–400.

- Heine, Steven. *A Day in the Life: Two Recent Works on Dōgen's Shōbōgenzō "Gyōji" [Sustained Practice] Fascicle*. A Review of Ishii Shūdō 石井修道著『正法眼蔵「行持」に学ぶ』 and Yasuraoka Kōsaku, 安良岡康作訳『正法眼蔵「行持」上』、『正法眼蔵「行持」下』, 35/2: 363–372.
- Hoffman, John P. *Japanese Saints: Mormons in the Land of the Rising Sun*. Rev. by Emily Anderson, 35/2: 394–397.
- Kim, Hee-Jin. *Dōgen on Meditation and Thinking: A Reflection on His View of Zen*. Rev. by Joseph S. O'Leary, 35/2: 376–380.
- Matsuoka, Hideaki. *Japanese Prayer below the Equator: How Brazilians Believe in the Church of World Messianity*. Rev. by Andrea Tomita, 35/1: 166–170.
- May, John D'Arcy, ed. *Converging Ways: Conversion and Belonging in Buddhism and Christianity*. Rev. by Joseph S. O'Leary, 35/2: 400–402.
- Nicoloff, Philip L. *Sacred Kōyasan: A Pilgrimage to the Mountain Temple of Saint Kōbō Daishi and the Great Sun Buddha*. Rev. by Ian Reader, 35/2: 387–390.
- Pereira, Ronan Alves and Hideaki Matsuoka. *Japanese Religions in and Beyond the Japanese Diaspora*. Rev. by Regina Yoshie Matsue, 35/1: 161–165.
- Ramirez-Christensen, Esperanza. *Emptiness and Temporality: Buddhism and Medieval Japanese Poetics*. Rev. by R. Keller Kimbrough, 35/2: 380–383.
- Rocha, Cristina. *Zen in Brazil: The Quest for Cosmopolitan Modernity*. Rev. by Frank Usarski, 35/1: 170–173.
- Stalker, Nancy K. *Prophet Motive: Deguchi Onisaburō, Oomoto, and the Rise of New Religions in Imperial Japan*. Rev. by Benjamin Dorman, 35/2: 384–387.

Asian Ethnology

Volume 67 (2008) の目次

論 文

BENDER, Mark. Tribes of Snow: Animals and Plants in the Nuosu Book of Origins. 67/1: 5–42.

JOHN, S. Simon. Kaniyan: Ritual Performers of Tamil Nadu, South India. 67/1: 123–135.

KENDALL, Laurel. Editor's Introduction: Popular Religion and the Sacred Life of Material Goods in Contemporary Vietnam. 67/2: 177–199.

KENDALL, Laurel, Vũ Thị Thanh Tâm, and NGUYỄN Thị Thu Hương. Three Goddesses in and out of Their Shrine. 67/2: 219–236.

KNIGHT, Catherine. The Moon Bear as a Symbol of Yama: Its Significance in the Folklore of Upland Hunting in Japan. 67/1: 79–101.

LA Công Ý. *Đàn tính*: The Marvelous and Sacred Musical Instrument of the Tày People. 67/2: 271–286.

MATHUR, Nita. Chanted Narratives of Indigenous People: Context and Content. 67/1: 103–121.

NGUYỄN Thị Hiền. Yin Illness: Its Diagnosis and Healing within *Lên Đồng* (Spirit Possession) Rituals of the Việt. 67/2: 305–321.

NGUYỄN Văn Huy and PHẠM Lan Hương. The One-Eyed God at the Vietnam Museum of Ethnology: The Story of a Village Conflict. 67/2: 201–218.

ROBERTSON, Jennifer. Ema-gined Community: Votive Tablets (*ema*) and Strategic Ambivalence in Wartime Japan. 67/1: 43–77.

TAI, Hue-Tam Ho and LÊ Hồng Lý. The Revenge of the Object: Villagers and Ethnographers in Đồng Kỵ Village. 67/2: 323–343.

Vị Văn An. A Thái Divination Kit in the Vietnam Museum of Ethnology. 67/2: 257–269.

Võ Thị Thường. Sacred Object, Artifact, or Cultural Icon? Displaying the *Xặng bók* Tree of the Thái People. 67/2: 287–304.

Vũ Hồng Thuật. Amulets and the Marketplace. 67/2: 237–255.

書 評

Alberts, Eli. *A History of Daoism and the Yao People of South China*. Rev. by Lowell Skar, 67/2: 347–349.

- Baolin, Duan 段寶林, ed. *Zhongguo Minjian Wenxue Gaiyao* 中國民間文學概要. Rev. by Mark Bender and Peace Lee, 67/1: 163–164.
- Baolin, Duan 段寶林, ed. *Zhongguo Minjian Wenyixue* 中國民間文藝學. Rev. by Mark Bender and Peace Lee, 67/1: 163–164.
- Brandt, Kim. *Kingdom of Beauty: Mingei and the Politics of Folk Art in Imperial Japan*. Rev. by Chiaki Ajioka, 67/1: 154–157.
- Chau, Adam Yuet. *Miraculous Response: Doing Popular Religion in Contemporary China*. Rev. by Tan Chee-Beng, 67/1: 165–166.
- Coté, Joost, ed. and trans. *Realizing the Dream of R. A. Kartini: Her Sisters' Letters from Colonial Java*. Rev. by Doreen Lee, 67/2: 357–360.
- Coté, Joost. Redefining the History of Australia's Asianness. 67/1: 137–149. Reviews of: John Fitzgerald, *Big White Lie: Chinese Australians in White Australia*; Regina Ganter, *Mixed Relations: Asian-Aboriginal Contact in North Australia*; Daniel Oakman, *Facing Asia: A History of the Colombo Plan*; Anna Shnukal, Guy Ramsay and Yuriko Nagata, eds., *Navigating Boundaries: The Asian Diaspora in Torres Strait*; and Peta Stephenson, *The Outsiders Within: Telling Australia's Indigenous-Asian Story*; Gwenda Tavan, *The Long, Slow Death of White Australia*.
- Frembgen, Jürgen Wasim. *The Friends of God, Sufi Saints in Islam: Popular Poster Art from Pakistan*. Rev. by Max Klimburg, 67/1: 170–173.
- Guggeis, Karin et al., eds. *Football: One Game – Many Worlds*. Rev. by Tsuneo Sogawa, 67/1: 151–153.
- Hesselink, Nathan. *P'ungmul: South Korean Drumming and Dance*. Rev. by Roald Maliangkay, 67/1: 160–162.
- Lindsey, William R. *Fertility and Pleasure: Ritual and Sexual Values in Tokugawa Japan*. Rev. by Lisa Kuly, 67/1: 157–160.
- Lutgendorf, Philip. *Hanuman's Tale: The Messages of a Divine Monkey*. Rev. by Jeffrey Brackett, 67/2: 354–356.
- Kapstein, Matthew. *The Tibetans*. Rev. by Frederick M. Smith, 67/1: 167–169.
- Taylor, Philip, ed. *Modernity and Re-enchantment: Religion in Post-revolutionary Vietnam*. Rev. by Karen Fjelstad, 67/2: 349–354.
- Zeitlin, Judith T. *The Phantom Heroine: Ghosts and Gender in Seventeenth-Century Chinese Literature*. Rev. by Katherine Carlitz, 67/2: 345–347.

研究所のスタッフ

2008 年 4 月 ～ 2009 年 3 月

第一種研究所員

Paul L. SWANSON, 所長

Benjamin DORMAN

James W. HEISIG

奥山 倫明

渡邊 学

長谷 千代子

坂井 祐円

鷺見 朗子

寺尾 寿芳

Tiziano TOSOLINI

山口 亜紀

第二種研究所員

梁 曉虹

森山 幹弘

西脇 良

客員研究所員

Khapra B. AKHMEDOVA

Mark BLUM

Victor Sôgen HORI

Thomas P. KASULIS

R. Keller KIMBROUGH

Aasulv LANDE

Martin LU

Levi McLAUGHLIN

Andrea MOLLE

Robert RAUTHER

Timothy RICHARDSON

編集員

David WHITE

研究員

長澤 壮平

大谷 栄一

非常勤研究員

Enrico FONGARO

Alena GOVOROUNOVA

長谷川 恵美

平島 みさ

堀 雅彦

岩本 明美

川上 恒雄

金 承哲

Ranjana MUKHOPADHYAYA

Roger MUNSI

長澤 志穂

SANDA Ichirô

Scott SCHNELL

Rafael SHOJI

Mark TEEUWEN

Annewieke VROOM

YUSA Michiko

諸宗教研究講座

客員研究所員

John P. KEENAN

John L. MARALDO